

基本評価シート

様式

北海道 新十津川雨竜区域

(北海道空知総合振興局保健環境部環境生活課)

基本評価シート（ニホンジカ）

1. 事業の基本情報

事業名（※1）	北海道指定管理鳥獣捕獲等事業（ニホンジカ）		
	令和6年度（2024年度）エゾシカ指定管理鳥獣捕獲等事業（新十津川両竜地域）委託業務		
都道府県名	北海道	担当者部・係名	空知総合振興局保健環境部環境生活課自然環境係
担当者名	押切 麻衣子	担当者連絡先	0126-20-0043 (6-450-2977)
捕獲実施事業者	特定非営利活動法人 EnVision 環境保全事務所 (認定を受けている)	予算額（※2）	195,038,000円
		予算額の内捕獲に要する経費（※3）	108,148,000円

（※1） 交付金を用いて実施した事業名を記入。複数ある場合は、事業件名ごとに記入。

（※2） 予算額は、交付金の対象となる指定管理鳥獣捕獲等事業の全体予算を記入する。

（※3） 予算額の内、捕獲に要する経費は、平成28年度から適用される交付金所要額調書様式1-2「2指定管理鳥獣の捕獲等」の内訳を記入。その他にも、捕獲に要する経費がある場合は、別途加算する。

○令和6年度における生息等の状況及びこれまでの個体群管理の取組み

〈指定管理鳥獣捕獲等事業の実績〉

事業目標 (目標頭数などの数値目標)	実施結果	
	捕獲頭数	目標達成率
10頭	17頭	170%

〈生息等の状況及びその他の捕獲実績〉

推定生息頭数	特定計画管理目標	目標生息頭数
73万頭※ (個体数指数: 東部148、北部127、中部112、南部388)	東部: R8末に個体数指数50以下(H23を100) 北部・中部: R13末に個体数指数50以下(H23を100) 南部: R8末までに減少に転じさせる	設定していない
狩猟捕獲数	許可捕獲(有害)	許可捕獲(個体数調整)
35,232頭(R5)	61,491頭(R5)	58,803頭(R5)

※令和3年度推定生息頭数。東部（オホーツク、十勝、釧路、根室）、北部地域（空知、上川、留萌、宗谷）、中部地域（石狩、胆振、日高）の合計。南部地域（後志、渡島、檜山）は、これとは別に3~15万頭の間と推定

○これまでの個体群管理の取組み（都道府県単独事業）

H9以降、道が策定した「エゾシカ保護管理計画」（H27以降「エゾシカ管理計画」）に基づき、狩猟期間の延長や可猟区域の拡大、雌シカ捕獲制限の緩和、一斉捕獲の実施、モニタリングに基づく個体数指数を用いたフィードバック管理の推進等の対策を進めてきた。

2. 令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業の実施概要

項目	概要
事業背景・目的	<p>第二種特定計画である「北海道エゾシカ管理計画」において、指定管理鳥獣捕獲等事業について「エゾシカによる生物多様性への影響や被害等が深刻又は懸念される地域においては、指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲を必要に応じて計画的に実施する」としている。</p> <p>これに基づき、鳥獣保護区や自然公園など、市町村等による捕獲が困難な地域でエゾシカの捕獲を実施する。</p> <p>【選択欄】</p> <p><input type="checkbox"/> 特定計画の管理目標に不足する捕獲数を高密度地域で上乘せした。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 分布拡大防止を目的として生息域の外縁で捕獲を実施した。</p> <p><input type="checkbox"/> 効果的な捕獲手法の開発を行なった。</p> <p>※事業実施目的に最も近いものを1つ選択。</p>
人材育成の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 人材を育成するための配慮、取組がなされている。
実施期間	令和6年11月29日～令和7年3月21日（※委託期間）
実施区域	<p>新十津川雨竜地域（樺戸群新十津川町及び雨竜郡雨竜町）</p> <p>雨竜地域に位置する雨竜沼湿原は、暑寒別天売焼尻国定公園内に所在し、雨竜沼鳥獣保護区に指定されている高層湿原帯である。湿原は標高約850mに所在し、エゾカンゾウをはじめとする約150種の植物が生息し、景勝地として多くの登山客が訪れるが、近年、エゾシカの侵入に伴って植物の食害が加速し、年々湿原内の花の確認数が減少している。</p> <p>また、同鳥獣保護区内に設置した自動撮影カメラや多くの植物の食痕、足跡等の形跡から、エゾシカが湿原内に生息していることを確認しており、このまま放置した場合は湿原内の植物の壊滅的被害が予想される状況。高所での捕獲作業は個体処理を始めとする事業実施上の障壁が多いことから、湿原を利用するエゾシカの越冬地での捕獲を目指し、令和5年度に雨竜沼湿原内でエゾシカ1頭にGPS首輪の取り付けを行ったところ、当該地域が越冬地としての可能性が示唆されたことから、今後の湿原植生保全のためにも越冬地におけるエゾシカの個体数調整捕獲を行いうため捕獲区域とした。</p> <p>捕獲区域周辺は、250～400mほどの山地の中に所在。尾白利加川を境にして、右岸側が新十津川町、左岸側が雨竜町であり周囲から複数の沢が流れ込み下流には尾白利加ダムがあるなど水源豊富な環境である。また、尾白利加川に沿って雨竜沼湿原へ向かう道道432号線が通り、尾白利加川沿いの大部分は天然性の民有林で一部道有林を含む。天然林の中でもトドマツ林が点在する環境であり、尾白利加ダム北側には、オシロリカ鳥獣保護区が設定されている。</p> <p>※1：実施区域の特徴も記入 ※2：事業計画の地図がある場合は、図面を添付</p>

関係機関との協力	<ul style="list-style-type: none"> ・環境省北海道地方環境事務所：希少種等の情報提供や捕獲事業の情報共有を図る。 ・空知総合振興局森林室：道有林内で実施する際の入林等手続き及び捕獲事業の情報共有を図る。 ・空知総合振興局札幌建設管理部滝川出張所：道道冬期通行止め区間の道路使用承認手続き及び捕獲作業の情報共有を図る。 ・(地独)北海道立総合研究機構：捕獲手法や分析等の助言など効果的な事業実施に向けた連携を図る。 ・旭川方面深川警察署：道道の使用承認及び捕獲作業の情報共有を図る。 ・地元市町村等：地域住民への連絡周知や地元関係機関との調整、捕獲事業の情報共有を図る。
事業の捕獲目標	(170%達成) = (17 実績値) / (10 目標値)
捕獲手法	<p>【銃猟】</p> <input type="checkbox"/> 誘引狙撃 <input type="checkbox"/> 巻き狩り <input checked="" type="checkbox"/> 忍び猟 <input type="checkbox"/> モバイルカリング <input type="checkbox"/> 夜間銃猟 <input type="checkbox"/> その他 () <p>【わな猟】</p> <input type="checkbox"/> くくりわな <input type="checkbox"/> 箱わな <input type="checkbox"/> 囲いわな <input type="checkbox"/> その他 () ※1：各種猟法の定義は○ページ参照、※2：複数チェック可
捕獲個体の確認方法	<input type="checkbox"/> 個体の身体の一部(耳、尾など) <input checked="" type="checkbox"/> 写真(証拠写真は、捕獲者・捕獲個体・捕獲情報を記載したホワイトボード等を撮影することとし、またGPS機能付きのカメラ(スマートフォンを含む)で撮影し、データも併せて添付する。) <input type="checkbox"/> その他(捕獲現場にて立会又は搬入確認) ※複数チェック可。
捕獲個体の処分	捕獲個体の処分について <input type="checkbox"/> 全て焼却又は埋設を行っている。 <input type="checkbox"/> 一部、食肉等への活用を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 一部、放置を認めている。 ※複数チェック可
環境への影響への配慮	わなによる錯誤捕獲について <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の情報を収集している。 <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の実態は不明である。 わなによる錯誤捕獲の未然防止について <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策をしている。 (内容：常に監視を行い、他の鳥獣が囲いわなに侵入した際は、立ち去るまで待機を行う。) <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策はしていない。 鳥類の鉛中毒等について <input checked="" type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例がない。 <input type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例が確認されている。 鉛製銃弾について <input type="checkbox"/> 全て鉛製銃弾を使用している。 <input type="checkbox"/> 一部、非鉛製銃弾を使用している。 <input checked="" type="checkbox"/> 全て非鉛製銃弾を使用している。

安全管理の体制	<p>捕獲実施に先立ち、受託者が作成する「捕獲作業計画」において、連絡体制や実施体制及び事故防止に向けた捕獲時の現地立ち入り規制体制等を記載させた。</p> <p>捕獲事業の実施にあたっては、予め捕獲場所、実施期間、及び捕獲手法について市町村等関係機関と調整を行った。</p> <p>捕獲事業の実施期間は、捕獲事業者であることを明確にした上で、必要に応じ関係者以外の立ち入りを規制した。</p> <p>また、従事者のみならず、地域住民等の第三者の安全の確保に努めるとともに、労働安全衛生法等関係法令に基づく措置を講じた。特に、本業務は高地での捕獲も含むことから、事前に天候等の情報を入手し、移動時も含めて事故等の無いよう十分な装備と計画のもと実施させた。</p>
捕獲従事者の体制	<p>【雇用体制】</p> <p>捕獲従事者数： 5人 (内訳)</p> <p>正規雇用者： 2人、期間雇用者： 人 日当制： 3人</p>

3. 令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業の評価

○指定管理鳥獣捕獲等事業の達成状況の評価について

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標達成】	<p>評価：捕獲目標数を達成し、雨竜沼湿原の植生保全へ繋げることができた。真冬の時期で除雪を入れずに実施し踏査労力は増加する環境であったが、エゾシカの動きも積雪により鈍くなっているところを狙うことで捕獲に繋げることができたと考える。</p> <p>また、放置個体の消失状況のカメラ記録を取ることで冬眠明けのヒグマへの影響を推し量ることができたことと、今後、捕獲対策を検討するなかでの有効なデータとなった。</p> <p>改善点：一方で、2月中旬から2月下旬にかけての捕獲回では、目撃数が減少し、捕獲数を伸ばすことができなかった。引き続き当該地域での捕獲を検討する場合は、捕獲実施時期を少し前倒して12月～2月中旬頃に設定することで今回よりも捕獲数を伸ばすことができると考える。しかし、当該地域は多雪地帯であることと、山間部で街と現場の天候状況が異なることにより、捕獲実施当日に作業中止をする場面があった。そのため、捕獲作業中止を見込んだ柔軟に対応できる作業設定が必要と思われる。</p> <p>今回は除雪を実施しなかったため踏査労力の掛かる中での作業であったが、途中まででも除雪を入れることができればアクセスにかかる時間を短縮することができるため、更に捕獲数を伸ばすことができると考える。</p>
【実施期間】	<p>評価：令和5年度に取り付けたGPSデータと12月と2月に実施した現場踏査の結果を活かして捕獲期間を設定し、捕獲に繋げることができた。</p> <p>改善点：捕獲期間は2月末までであったが、2月中旬からシカの動きが変化したことにより、捕獲数を伸ばすことができなかった。捕獲時期を12月から捕獲を開始するなど、捕獲時期を前倒すことで更なる捕獲数を稼ぐことが</p>

	できると考える。
【実施区域】	評価：今回は GPS 個体の記録が 1 月で止まり、冬期間全ての動きを把握できなかったことや、GPS が停滞した場所まで除雪を入れることができなかったことから、捕獲範囲を広めに確保した。そのため、移動しながら捕獲を実施し目標頭数を上回ることができた。このことから、捕獲実施区域の設定としては適切だと判断できる。
	改善点：捕獲実施区域を広めに確保したことにより、捕獲頭数を伸ばすことができたが、雨竜沼湿原を利用していない群れの個体も捕獲している可能性もある。そのため、確実に雨竜沼湿原の植生保全に繋げるためには、1 月から夏までの移動の把握と夏場に実際に雨竜沼湿原を利用しているエゾシカを湿原内で捕獲することが有効と考える。
【捕獲手法】	評価：除雪が実施できなかったため、見回りの労力や資材搬入ができない点を考えると適切であった。
	改善点：除雪が実施できればアクセスに要する時間を短縮され、効率的な捕獲が見込める。
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価：町及び現地団体と連絡調整を行い、手法の検討や安全確保を行い実施した。捕獲では、警察、ダム管理者、地権者、道道管理者への協議・調整も行い、安全に配慮して作業を実施することができた。
	改善点：捕獲実施場所は、電波圏外や山間部であるため、発注者と受注者との緊急時の連絡体制や捕獲作業の把握など連絡調整体制を確実に構築させる必要がある。
【個体処分】	評価：捕獲に使用する道路は道道であるが、冬季通行止め区間であり通行止めとなる期間も長いことから人の出入りが無いことに着目し、効率的な捕獲を行うため放置を可能とした。 また、地域産業や他鳥獣への悪影響となるような安易な放置を避けるために放置する際の条件等を設け、環境に配慮しながらも効率的に捕獲を実施することができた。
	改善点：今回は捕獲した個体全てが 3 月時点で可食部分がない状態まで鳥獣により消費されたが、捕獲頭数を伸ばすことにより捕獲量が消費量を上回ると春先まで捕獲個体が残る恐れもある。そのため、捕獲頭数を伸ばしていくことを考えると、捕獲した個体全てを放置するのではなく、有効活用等に回す仕組みの構築も必要である。
【環境配慮】	評価：捕獲個体の放置を条件付きで行った。法律上の決まりでもあるが、付近には猛禽類の生息もあるため鉛弾は使用しないことや、沢や河川などの水源から避ける形で放置することとし、環境への影響を最小限に留める工夫を行った。

	<p>改善点：【個体処分】にも記載したとおり、捕獲量が消費量を上回ると春先まで捕獲個体が残る恐れもある。その場合、冬眠明けのヒグマがつく可能性があることから、捕獲後の放置個体は最小限に留め、現場からの搬出が可能な仕組み作りが必要と考える。</p>
<p>【安全管理】</p>	<p>評価：警察、ダム管理者、地権者、道道管理者への協議・調整及び入口等での注意看板設置など周知も行い、安全に配慮して作業を実施することができた。当日の保安要員配置、捕獲従事者同士の事前打ち合わせ、受発注者間の情報共有などに加え、事故防止のため改めて安全確認を行うことで安全管理体制を確保した。</p> <p>改善点：今回の越冬地での捕獲は、多雪地帯であることから電波圏外であることや雪の問題（積雪や天候が読めない等）があるため、新たな捕獲手法を試験的に導入する場合は、適宜新たに適切な安全管理体制を構築する必要がある。</p>
<p>3. その他の事項に関する評価及び改善点</p> <p>今年度は越冬地である新十津川町美沢地区と雨竜町国領地区で捕獲を実施した。雨竜町では、12月と3月にスノーモービルと用いた有害駆除を実施しているが、1～2月の真冬の時期には実施していない。そのため、今年度に道による捕獲を実施したが、今後も銃による捕獲を継続した場合、当該地域のエゾシカの警戒心が高まる可能性がある。したがって、今後は構成頭数の少ない群れを全頭捕獲していくことが望ましい。</p> <p>また、今回は捕獲場所まではスキー等を用いた歩きによりアクセスしたが、距離が長いので猟銃を持ちながら長距離歩くことができる従事者が必要になる。</p> <p>今回捕獲場所が広域に及ぶため、事前調査と捕獲中にもドローンを使用した調査・探索等を試行したが、当該地域は多雪地帯であるため実施は天候に左右されることから冬期間の運用は課題が残る形となった。</p>	
<p>4. 全体評価</p> <p>今年度は、過去の捕獲事業で得た知見を活かして個体数調整捕獲を実施し、目標頭数以上の成果を得ることができた。このことから、翌年の雨竜沼湿原を利用するエゾシカの数が増加し被害軽減することが期待される。しかし、単年度だけでは被害への即効性はないため、このような個体数調整を継続して実施していく必要がある。</p> <p>まず、越冬地での捕獲については、2月中旬以降は今年度実施した区域周辺ではエゾシカの確認頭数が減少した。このことから、1月から2月中旬に個体数調整を実施することが最適である反面、新雪であるためスノーモービルの使用は不可能である。そのため、スキー等でのアクセスが適しているが踏査労力が増加するという欠点もあるため、体力のある従事者が求められる。</p> <p>また、湿原北側や西側にもシカ道は確認されていることから雨竜沼湿原内には複数の群れが利用していることも考えられるため、今後も追跡調査を実施し新たな越冬地が見つければ捕獲対象場所として検討していく必要がある。</p>	

捕獲個体については、条件付きで放置可能とし、個体の消失状態も観察することで今後の事業活用のための検証を行った。結果、多雪地域であるが、可食部分については2週間以内には消失している状態であり、人の出入り等の条件によっては方法の1つとして考える材料にすることができた。

※「改善点」の欄には、評価結果を次期の指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画にどう反映するか等について記入する。

○第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

市町村による許可捕獲（有害駆除）等が実施されていない時期で実施したことにより、生物多様性への影響の軽減、周辺地域の農林業被害及び市街地への出没を軽減させるほか、エゾシカの逃避地を作らせないことによる地域全体の捕獲効率向上を期待している。

今後も取り付けた GPS データ等を基に捕獲を実施することで、より効果的かつ効率的なエゾシカ対策の推進を検討していく予定である。

4. 必須となる記録項目

(1) データの整備状況

ア) 基礎となる記録項目の整備状況

指定管理鳥獣捕獲等事業において整備している情報の項目にチェックをつける。

項目	整備状況	備考
①捕獲数・目撃数・捕獲努力量等の位置情報	<input checked="" type="checkbox"/> 行政区域（都道府県・市町村）ごと <input checked="" type="checkbox"/> 事業区域ごと <input checked="" type="checkbox"/> 5 km メッシュ <input type="checkbox"/> 1 km メッシュ <input type="checkbox"/> 捕獲地点（緯度経度） <input type="checkbox"/> 捕獲等に関する位置を記録していない	
②捕獲数	<input checked="" type="checkbox"/> 捕獲した個体の総数 <input checked="" type="checkbox"/> 雌雄の別 <input checked="" type="checkbox"/> 幼獣・成獣の別 <input type="checkbox"/> その他捕獲した個体に関する情報 ()	
③目撃数	<input checked="" type="checkbox"/> 作業の従事者が目撃した個体の総数	
④捕獲努力量	<input checked="" type="checkbox"/> 銃猟：のべ作業人日数※ <input type="checkbox"/> わな猟：わな稼働日数 (わな稼働日数=わな基数×稼働日数)	

※のべ作業人日：捕獲作業期間中に捕獲に従事した作業人数の合計。事前調査や下見に費やした作業の人日数は除く。

イ) 捕獲に関する概況地図の作成の可否

	作成できる概況図（地図）※についてチェック
捕獲位置の地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> 捕獲位置の地図を作成できない
CPUE の地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> CPUE の地図を作成できない
SPUE の地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> SPUE の地図を作成できない
概況図を作成する 上での課題	特になし

※概況図は原則として添付する。添付できない場合は「作成できない」をチェックする。

(2) 実施結果（必須となる記録項目）

ア) 捕獲努力量に関する事項

①銃器による捕獲

外業の人日数総数※1： 16 人日

事前調査人日数概数※2： 2 人日

出猟（捕獲作業）人日数： 14 人日

項目	令和6年 (事業年度の値)	令和5年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量（銃猟） のべ人日数	14 人日	17 人日	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

②わなによる捕獲

外業の人日数総数※1： 人日

事前調査人日数概数※2： 人日

出猟（捕獲作業）人日数： 人日

項目	令和6年 (事業年度の値)	令和5年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量（わな猟） わなの稼働総数（わな基 ×日数）	基日	48 基日	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）人日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。4

イ) 捕獲に関する結果

①銃器による捕獲

項目	令和6年 (事業年度の値)	令和5年 (前年度の値)	増減の傾向
① 捕獲数	17 頭	2 頭	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
② 目撃数	134 頭	11 頭	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
③ 雌雄比 (雌捕獲数/全捕獲数)	0.35	0.5	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
④ 幼獣・成獣比 (幼獣数/全捕獲数)	0.59	0	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（銃器）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	作業人日数 ^{※1}	CPUE ^{※2}	SPUE ^{※3}
<input type="checkbox"/> 誘引狙撃	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 巻き狩り	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input checked="" type="checkbox"/> 忍び猟	17 頭	14 人日	1.21 頭/人日 <input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	9.57 頭/人日 <input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> モバイルカリング	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 夜間銃猟	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他 ()	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1：作業日数には捕獲を実施していない誘引期間は含まない。

※2：CPUE＝捕獲数/のべ人日数

※3：SPUE＝目撃数/のべ人日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

③ わなによる捕獲

項目	令和6年 (事業年度の値)	令和5年 (前年度の値)	増減の傾向
① 捕獲数	頭	1 頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
②雌雄比 (雌捕獲数/全捕獲数)		1	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

③幼獣・成獣比 (幼獣数/全捕獲数)		0	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
-----------------------	--	---	---

令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（わな）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	わな稼働総数※1	CPUE※2
<input type="checkbox"/> くくりわな	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 箱わな	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 囲いわな	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他 ()	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:わな稼働総数には捕獲を実施していない誘因期間は含まない。

※2:CPUE=捕獲数/わな稼働日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

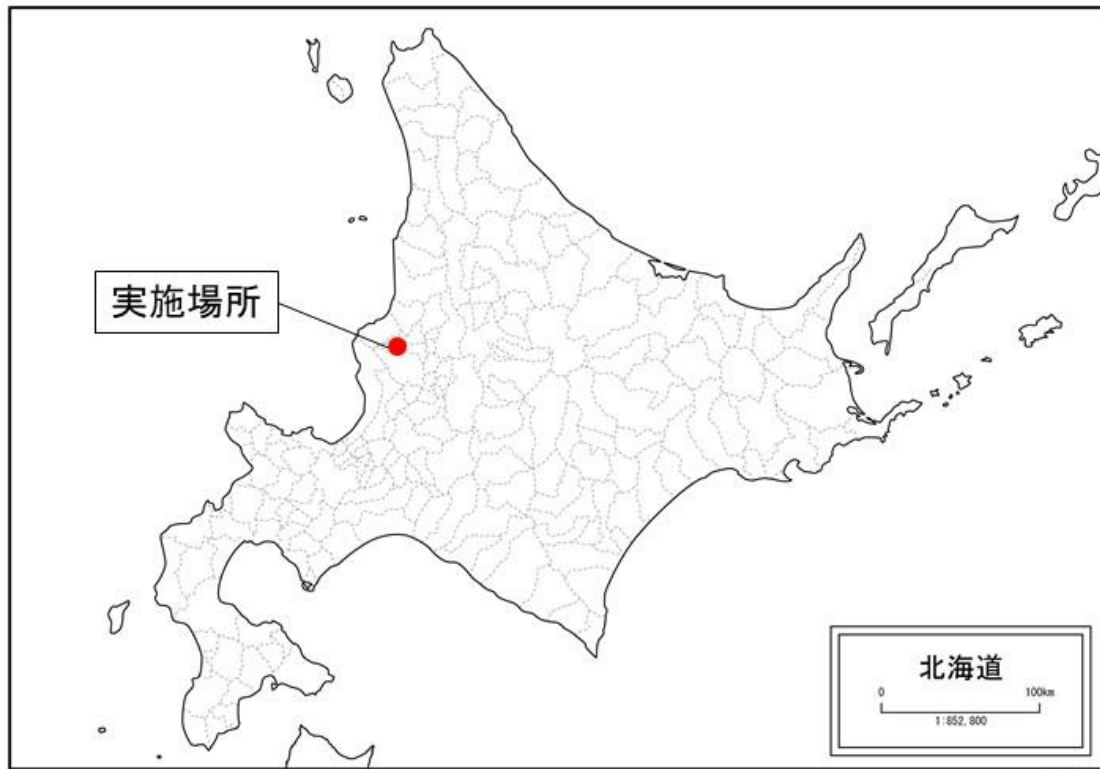
エ) 捕獲個体の適切な処理

処理にかかる人工概数：_____人・時間

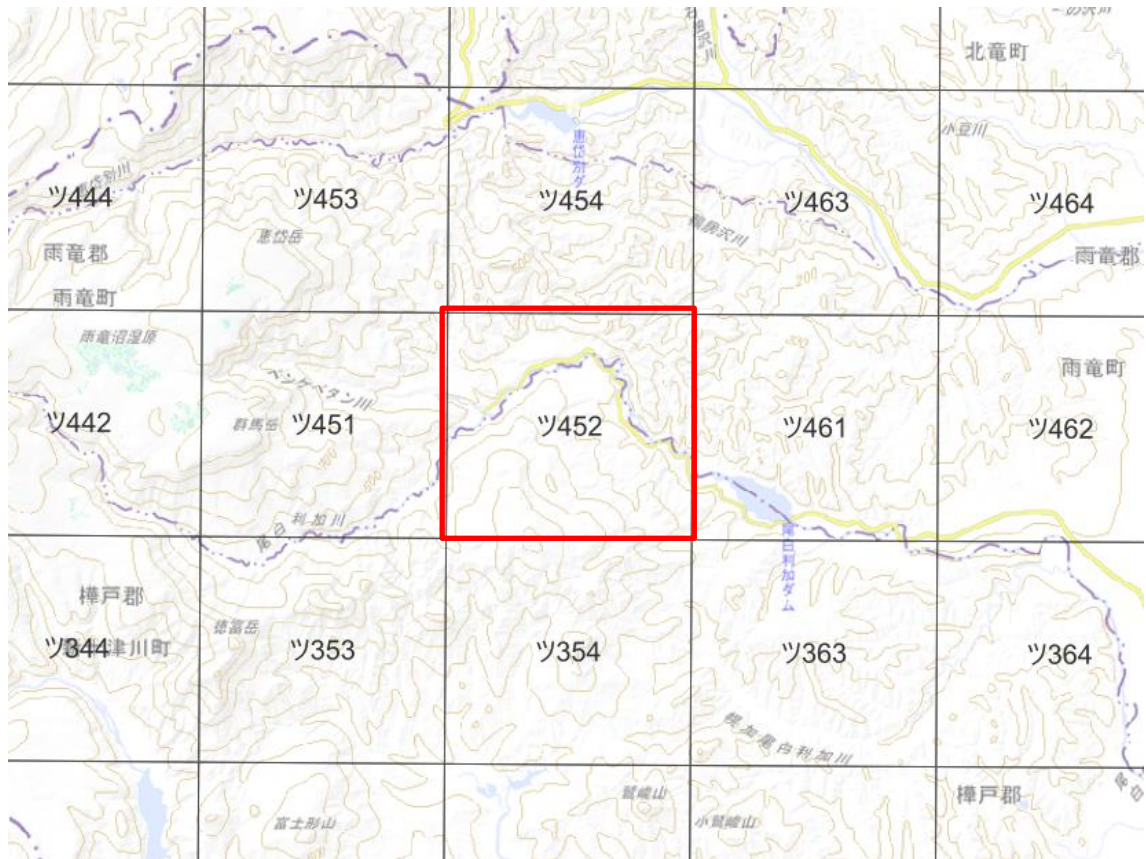
処理した個体のうち、食肉等への活用した個体の数量概数：_____個体

<p>適正な捕獲が実施されたかを確認する手法</p> <p>実施日時を作業日報に記載するとともに、捕獲個体毎に捕獲個体記録票を作成し、GPS 機能付きのデジタルカメラで撮影した写真を添付させ、捕獲情報を報告することとしている。</p> <p>捕獲した個体の処理については、発注段階から受入予定先を明記し、受託者が有効活用事業者と調整しながら捕獲事業を実施することとしており、納入結果についても報告させている。</p> <p>また、捕獲場所に個体を放置した場合は、放置場所付近へ目印をつけるとともに位置情報の記録とGPS機能付きのデジタルカメラでの撮影を行った。</p>
--

○事業実施箇所



○概況図



CPUE : 1.21 SPUE : 9.57 捕獲数 : 17